

会 議 録

会議名称	第7回柳川市民文化会館（仮称）基本計画検討委員会
日 時	平成27年4月27日（月） 14:00～16:00
会 場	柳川市城内コミュニティ防災センター
出席者	[委 員] 森田委員、姉川委員、草場委員（代理）、椛島（道）委員、安永委員、生田委員、古賀（俊）委員、古賀（理）委員、壇委員、大橋委員、野田委員、椛島（和）委員、原委員、勝見委員、今村委員、黒田委員、大森委員、齋藤委員 [事務局] 樽見教育部長、袖崎生涯学習課長、野田文化係長、堤文化係長、生涯学習課文化係 須崎、堤（智） （株）シアターワークショップ 伊東、今川
欠席者	[委 員] 立花委員、武末委員、古賀（弥）委員
議題等	1 開会 2 会議録の確認 3 議題 （1）4/23 市民ワークショップ結果の報告について （2）柳川市民文化会館（仮称）の施設（規模・諸室 等）について 4 その他 ○ 今後の予定について
会議資料	資料① 第5回市民ワークショップまとめ 資料② 柳川市民文化会館（仮称）の諸室・機能に対する方針（案）について 資料③ 施設面積表（案） 大ホール（プロセニウム型・可変客席） 資料④ 配置検討（大ホール可動席＋イベントホール）案 資料⑤ 柳川市民文化会館（仮称） 基本計画策定スケジュール（案）
次回会議	平成27年5月18日（月）14時～ 柳川市役所 三橋庁舎 第7会議室

＜審議結果は次のとおり＞

1 開会

2 会議録の確認

3 議題

(1) 4/23 市民ワークショップ結果の報告について

- ・参加者は 18 名、そのうち車いすの参加者が 2 名。
- ・川向うの畑を買うという意見があるが、現状の予定敷地内で駐車場の不足などの問題があれば、土地の取得も検討するが、現状はゴルフ場の購入までの予定。
- ・温水プールが必要ないという意見があるが、10 年ほど前に改修工事を行っており、利用者も多いため、市民文化会館（仮称）の立替に合わせてプールを壊すことは考えていない。将来的に更新はしないという方向。公共施設全体を管理するマネジメント計画を今年度から検討することになっており、別の場で検討。

(2) 柳川市民文化会館（仮称）の施設（規模・諸室 等）について

- ・市の方針は、大ホールは可変客席 800 席、小ホールはイベントホールとする。今後の設計段階等で若干の機能の変更もあり得る。
- ・大ホールが可変で、イベントホールも可変という新しいプラン。大ホールが 800 席、600 席、300 席とさまざまなサイズで利用できる。
- ・1 階部分の可動席は空気で浮かせてブロック単位で動かすエアキャスター式の移動席を想定。長野県茅野市に同じ方式のホールがある。保守費用が年間 180 万程度かかるとのこと。音響は、実際に茅野市のホールで聞いてきたが問題はない。
- ・茅野市民館では、年間 1/4、30 件程度は可動させて使用している。柳川市でも同じ位の想定だが、件数は事業次第。固定席よりも 2～2.5 割上がると考えている。
- ・イベントが重なった場合は、イベントホールを小ホール代わりに使う。イベントホールも音楽や講演に使える。
- ・現時点では喫茶、カフェテリアは入れていない。ソフト事業を考える中で、飲食のスペースは考えていきたい。
- ・ロビーはかなり狭いが、事業費の関係上、面積は増やさない方向。資材費の高騰等を考慮すると、極力小さくする方向で設計を行いたい。

- ・ホール入口とロビーは分けて欲しい。
- ・残響可変装置クラシック音楽では残響は長く、演劇・会議では残響は短くということになる。容積に関係しており、今回想定しているホールの場合、クラシックで1.6秒、演劇では1秒程度又はそれ以下と想定。音響反射板を設定するだけで0.3~0.4秒程度の可変が可能。壁のカーテンなどで調整する手法もある。最近の傾向は空間の形状が重要で、音がどのように反響が返ってくるのかが重要である。
- ・観客の滞留スペースについては、今後の設計の中で検討。
- ・大ホールを300席にした使い方は客席の中通路前の部分を迫り機構とし、これを舞台面まで上げ、客席の前方を舞台とする。客席の中に舞台をつくる方式。本舞台の後ろは緞帳等の幕で仕切ることになり、音響的な配慮は必要。
- ・仮ステージの緞帳仕切りの音響は問題である。音楽の編成でいろいろ条件が変わるので、全てに必ず良い音になると限らない。装置に莫大なお金をかけなくても良いのではないか。形式にとらわれない方が良い。観客の服の吸音も夏と冬で違う。
- ・音が悪いと、あのホールは音が悪いと、ずっと言われる。
- ・音響設計時に数値の追及を行うことが必要。設計時に音響設計をきちんと行い、設定した目標数値に納まっているかどうか、納まっていない場合はどうするかということになる。
- ・緞帳デザインは、バレエの時に使えないものもあり注意が必要。
- ・金属の緞帳もある。
- ・364席とした場合の空調は、足元からの空調の例がある。固定席のホールと同じなので、技術的には可能。
- ・迫りを上げて舞台にして、364席で使う場合、ピアノの生演奏等のバトン・照明などの吊りこみは、客席上部にキャットウォークを設け、照明は上から自由につけられるようになっていました事例がある。天井には音響反射板もあったので問題はない。客席と舞台を分ける仕切る幕は考えていない。
- ・300席利用で迫りを舞台にして使う場合、音響スピーカの位置は本来の位置のスピーカは使用できない。センターと両サイドのスピーカを置くのが一般的で、この両サイドのスピーカを可動式として持ち出して、適切な位置に配置して使用する。
- ・トイレは、1階の方が利用者は多く、両サイドにないとわかり難い。
- ・女性トイレの数は問題になることが多いため、設計段階で検討のこと。
- ・喫茶は、ホールでは本番と同時に喫茶の席は空席になるので運営は難し

い。外からでも、いつでも利用できるようにしないと、ホールのみでは回転率が悪い。喫茶店は外来の客が自由に入出入りできないと成り立たない。堀に面しているので、いつでも利用できると良い。見晴らしが良いと良い。

- 船着き場をつくって、観光客にも入ってもらいやすくして、いつでも立ち寄ってもらえるようにしたい。
- 可変の椅子全部は、平土間の時は反射板をセットした状態での使用となり、反射板の裏の舞台袖の部分に椅子は収納する。
- 奈落に入れる話もあったが、地盤が良くないのでできれば袖で収納したい。
- 100~200席のイベントホールの音響設計はフラッターエコーなどの基本的な障害がおきないようにすることが重要。ステージの位置が自由に行けるが、さまざまな舞台位置に対応する必要があり難しい問題。まずは、障害を取り除くことから音響設計を進めていくことになる。
- 総合美術展を行うかもしれないので、施設全体で展示できる場所は全て展示できるようにしたい。壁面はピクチャーレールで吊れるようにする。大空間の中央部は、展示パネルが良いのか、その脚はどうするのか。舞台部分は天井が高すぎるのであれば、パネルの上に仮設で照明が設置できるようにするなど、全ての部分で展示できるようにしたい。
- イベントホールの椅子は収納の問題もあり、スタッキングチェアを並べることになる。音がしなくて、1時間程度座わるのに耐えられる座り心地で、収納しやすい椅子を選ぶ必要がある。
- 問題がなければ、飲食も可能にしたい。
- イベントホールの舞台は予算があれば昇降式の可能性もあるが、予算は厳しいので仮設となる可能性が高い。
- 施設全体でのピアノ台数は未定。最低大ホール1台、イベントホール1台は必要。音楽練習室にも1台あると良いと思う。寄付などの可能性も含め検討したい。
- イベントホールは、仮設の舞台にはピアノが乗せられない。舞台裏の通路を舞台と同じ高さにしておかないとピアノを持ち上げるのは大変。
- 大道具を共有でまわすためには、床レベルの設定に注意が必要。ピアノの乗るエレベータ、廊下もピアノが通る幅が必要。2階までピアノを運べないのであれば、アップライトか何かを練習室に置く必要がある。
- ホールの音響にお金をかける必要はない。音響は持込がほとんど。音響は仮設の積み上げ型が良い。音響はどこにでも持って行けるようにラインを準備しておけば、講演会に対応できる設備があれば良い。仮設スピ

- 一カで性能の良いものがある。照明にはお金をかけたほうが良い。
- ・ 楽屋を会議室にも利用するとのことだが、高い防音性能の対応した部屋となっているとよい。大楽屋をつなげて広く使えるようにすること検討。
 - ・ 大ホール裏の楽屋事務所は、他のホールではあまり活用されていない。
 - ・ 席の幅は今の市民会館よりも広い設定。昔は法的に45cm以上で48cmが一般的だった。今は50~52cmが多く、広くて55cmのところもある。前後間隔は95cmが多かったが、椅子の背の厚みなどで空間がどれだけ残るか次第。95cmでもゆとりがあるようにつくることできる。ゆったりしすぎると舞台からはスカスカな感じに見えて、緊張感を持って舞台に対峙するとなると巾52cm、前後間隔90~95cmが落としどころ。
 - ・ ホールの後ろの個室は親子室で、配置は、今後検討。1階は後ろの壁を開ける予定で、1階には配置できず、2階になるだろう。
 - ・ 2階に照明と音響の調整室だろうが、音響システムはデジタルで、操作は袖でやることが多い。調整室には大きなミキサーは配置しなくても良いのでは。アンプは1階に配置してパッチを行うのも良い。1階でできれば、わざわざ2階まで行かなくてすむ。スピーカの近くにアンプを配置した方が良い。配線も工事が必要なものではなく、見える配線にしておくと、メンテナンスもしやすい。
 - ・ 団体活動室の使い方は登録した各種文化団体が使える事務室、会議室などの想定。電話は置かない。使い方は、今後の協議で決定したい。管理運営の中で用途を整理したい。
 - ・ 団体利用は一つの部屋を共同で使うのは難しい。
 - ・ 震災以降、ボランティア活動室として設置しているところが多い。
 - ・ 団体は備品を預かって欲しい。太鼓の団体は太鼓、ブラスバンドは大きな楽器。
 - ・ 2階のホワイエと楽屋の行き来は、楽屋ゾーン（裏）のセキュリティーはしっかりさせておきたい。楽屋への入り口は一ヶ所とすべき。2階では、現状の案では楽屋への通路はないが、避難のことも想定し、共用ゾーンである練習室エリアの部分に動線を取ることは可能。その場合、練習室側からホワイエに入れるようになってしまうので、セキュリティーは検討は必要。
 - ・ イベントホールが平土間とすることは、災害時のポイント。市民文化会館は、第一次避難施設となる予定。避難施設として、まとまった部屋が必要。イベントホールまでは開放できる部屋にする可能性がある。
 - ・ 完全平土間にしたとき、椅子・テーブルは別途、備品で対応。レンタルの方が安いかもしれない。ホールの椅子は演奏者の利用ができる椅子にしなければならないので、しっかりした椅子が必要。保管スペースも含め、ど

こまで保有するか、平土間の運用もあわせて考える必要がある。

4 その他

- ・文化会館の建設については、パブコメでも市民意見を聞く予定。
- ・アンケートの内容は、文化振興に特化した内容に変更。

5 閉会